



神戸学院大学—神戸海洋博物館展示

世界の帆船

～帆船と戦争～

海を舞台に戦った世界の帆船の歴史を感じることができる展示です。

図版や図書、練習帆船エスメラルダの模型を展示しております。

2016年11月7日～2017年2月28日

展示期間中の開館時間・休館日

期間	平日	土曜	日曜・祝日
11/7～12/24	9：00～21：00		休館
1/6～2/6	8：45～21：00		
12/26・27 2/7～2/28 ※12/28～1/5は休館	9：00～18：00		休館

※開館時間や開催時期は変更になることがあります。図書館 HP・掲示板にてご確認のうえご来館ください。



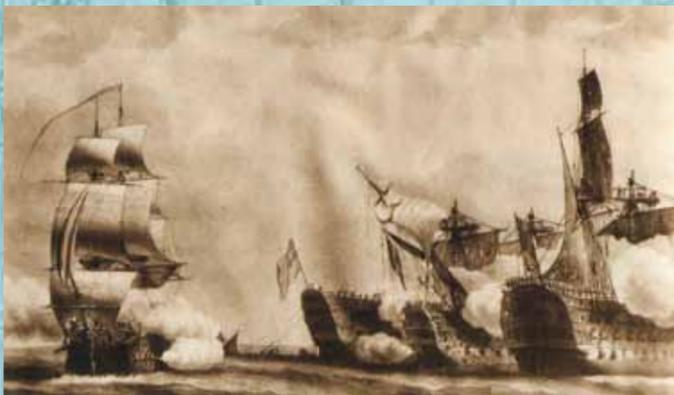
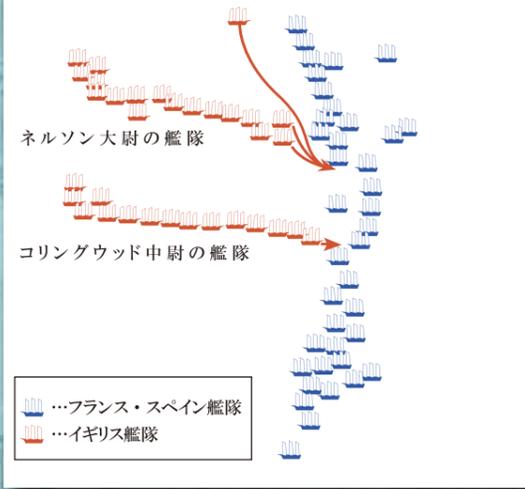
帆船と戦争

1600年代から1800年代まで、ヨーロッパでは帆船による海戦が絶え間なく行われていた。

トラファルガー海戦

1805年、ヨーロッパ大陸は皇帝ナポレオン率いるフランス帝国の支配下に置かれていたが、海上の支配権はイギリスのもとにあった。当時、フランスとイギリスは第二次百年戦争の真つただ中で、お互いライバル関係にあった。イギリスはロシア、オーストリアと第3回対仏大同盟を結び、フランスと対峙。これに対しフランスのナポレオンはスペイン海軍と同盟し、イギリス上陸を目指す。1805年10月21日、イギリスのネルソン提督率いる艦隊がイベリア半島南西部トラファルガー岬の沖で、フランス・スペイン連合艦隊と接触(図1)。

(図1) トラファルガーの海戦(1805年10月21日)



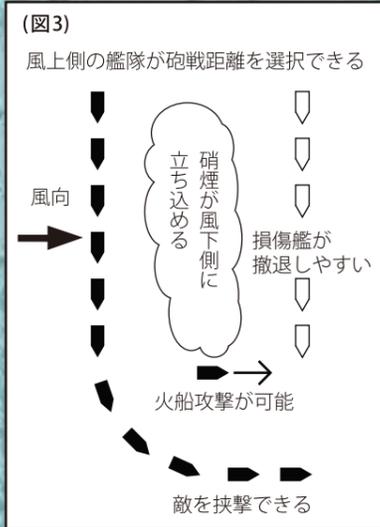
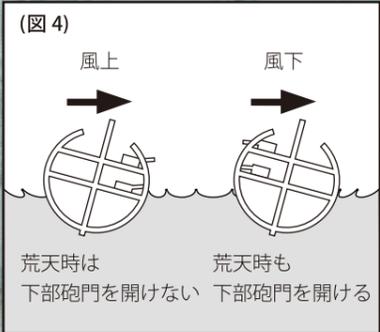
(図2) ネルソンの旗艦ヴィクトリーとイギリス戦列艦テメレールに挟撃され、すでに白兵戦に突入しているフランス戦列艦ルドゥタブルは、さらにイギリス戦列艦ネプチューンから縦射を受ける。(『図説ナポレオン: 政治と戦争フランスの独裁者が描いた軌跡』松島明男著。河出書房新社、2016。東京、169p。参照)

戦艦33隻からなるビルヌーブの艦隊は、イギリス艦隊を認めると北に針路を変え、これに対しネルソンは、27隻のイギリス艦隊を自ら率いる15隻と、副司令官コリングウッドの率いる12隻の二隊に分けた。旗艦ビクトリー号に「イギリスは各員が義務を果たすことを期待する」との信号を掲げ西から接敵、敵艦隊を断し攻撃した(図2)。

その結果、イギリスは沈没艦ゼロ、戦死約1600人に対し、敵艦のフランスは撃沈5、捕獲17、戦死約8000人というイギリスの大勝利に終わった。しかし、この海戦により、ネルソン自身は艦上で戦死し、ナポレオンはイギリス上陸を断念した。

風の重要性

攻撃を仕掛けるときは、風上側からと風下側からの二通りがある。風上側と風下側には一長一短があり、どちらが有利かは一概に決められない(図3)。風上側の利点は、攻撃時期と砲戦距離を主体的に決定して、戦闘の主導権を得られることである。また、相手の戦列を分断又は突破し、挟撃することが容易で、火船(火をつけた船。船やいかだに、わら、木などを積みこんで火をつけ、風上から敵船団に向けて放す)の使用もできる。風上の欠点は、悪天候時各艦が下部砲門を開くことができないことである。(図4)砲門から波浪が入り込み、最悪の場合、艦が沈没してしまう。また風上側は損傷艦の避退が困難でもある。これに対し風下側は、悪天候時でも下部砲門を開くことができ、最大の利点は避退しやすいことである。



海上での制約

指揮官が艦隊に命令を下すときに、特に重要な3つの制約がある。

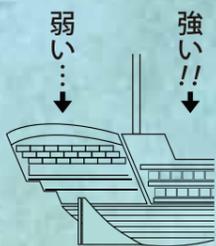
風向き

全ての帆船はキール(竜骨)を使用したとしても、風上に向かって45度より小さな角度では帆走できない。



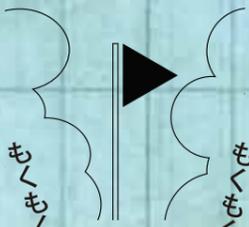
船首、船尾の脆弱性

当時の帆船は左右の舷側に砲を配置しており強い木材で作られていたが、船首方向、船尾方向にはわずかな砲しか配置しておらず、木材も舷側に比べ強度は低かった。船尾には士官用船室の大きな窓などが設置されていたため船首または船尾方向からの砲撃に弱く、舷側からの反撃もできなかった。



海上での情報連絡の難しさ

艦隊同士の文章による連絡は航行中では不可能であり、また声による伝達も風の音や気象の影響下では困難であった。あらかじめ決められた旗旗信号を旗艦に掲げて情報連絡を取らざるを得なかったが、この伝達方法も硝煙により確認できない問題があった。



艦隊陣形

梯形陣



旗艦を先頭に後続艦が斜めに続く陣形。

単縦陣



艦隊の各艦が縦一列に並ぶ陣形。艦隊陣形の基本形。艦隊運動が容易で砲撃船に適している。

輪形陣



旗艦などの重要艦を中心に、僚艦が周囲を取り巻くもの。周囲の輪は二重、三重の場合もある。

単横陣

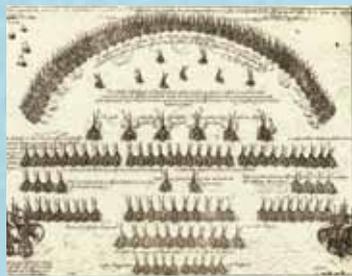


艦隊の各艦が横一列に並ぶ陣形。ガレー船時代からある歴史的陣形。

図版ギャラリー



1628年 黄金船隊壊滅の様子



レパント海戦
キリスト教三国の連合艦隊が、
オスマン帝国海軍に勝利した戦い。



船の旗
17世紀、色と配列で提督の
命令を艦隊の船に下達した

参考資料

『図説ナポレオン：政治と戦争フランスの
独裁者が描いた軌跡』

松島明男著。-- 河出書房新社, 2016. 東京, 169p.
ポーアイ館 2階東 (289.3/NAP/Z)
資料 ID:116018104

『図説イングランド海軍の歴史
= The naval history of England』

小林幸雄著。-- 原書房, 2007.
ポーアイ館 2階西 (397.233/KOB/Z)
資料 ID:107002808

『japanknowledge』

<http://japanknowledge.com/library/>

展示風景

帆船に関する図版、切り絵、図書、模型を展示しております。
世界の帆船の、技術や発展の歴史を感じることが出来る資料展
となっております。



編集後記

国や大きな商業都市は 多種多様な旗を採用していた。

今回の sea scape は前期に引き続き帆船をテーマにしたものですが、内容は全く違うものになりました。戦争という重いテーマですが、帆船ならではの戦術や戦略、制約など、調べていくほど戦艦としての帆船の魅力に触れることができました。様々な海戦に従事し、歴史の節目で活躍した帆船たち。美しい戦列で海を渡り、時には荒々しく海戦を繰り広げたりと前期とは違った魅力を感じ、改めて帆船の奥深さを実感しました。前号と今号の sea scape を読んで、帆船に少しでも興味を持って頂ければ幸いです。展示には様々な帆船の図版やエスメラルダの模型を展示していますので、ぜひそちらもお楽しみください。

ポーアイ図書館
入口ゲート前です。
ご自由にご覧下さい。

SeaScape

第21号 2016年11月発行

発行・編集 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス図書館

〒650-8586 神戸市中央区港島1丁目1番3